

# 果樹園地継承者の早期経営安定に向けて

東近江農業普及指導センター

## 【普及活動のねらい・対象】

K氏は平成30年2月より愛東ぶどう生産出荷組合員（以下組合員）のブドウ園約37aを継承し、栽培を開始された新規参入の就農者です。前年に約一年間、組合員の元でマスクカットベリーA栽培の技術研修を受講されましたが、継承園は大粒系4倍体品種が中心で、老齡樹が多かったことから、就農1年目はブドウの秀品率が低く、販売額も目標の約52%にとどまりました。

そこで、各品種の秀品率の向上と目標販売額確保に向けて栽培技術を支援しました。

## 【普及活動の内容】

目標販売額を下回った原因は、粒重・房重が小さく、規格が「秀」ではなく、「秀」より単価の劣る「優」となり、袋売り中心になったことでした。その反省から、化粧箱で販売できる秀品規格をめざし、着房数の制限や果粒肥大させる植物成長調整剤の濃度調整、摘粒時期・方法等の技術支援を行いました。老齡樹が多く、樹勢が樹毎で異なるため、1本1本の特徴をK氏と共有しながら管理方法について検討を重ねました。



写真 将来目標（経営計画）の検討

また、園地継承が急遽決まり、目標設定が曖昧となっていたため、認定農業者としての経営改善計画書の作成を促し、中期目標の設定を行いました。

## 【普及活動の成果】

当センターの支援の結果、K氏は着実に技術力を高められ、昨年度よりボリューム感のあるブドウが生産され、秀品率が向上するとともに、目標販売額の104%を確保できました。また、経営改善計画書を作成し、今後の目標が明確になりました。

昨年度の経験に加え、今年度の取組を行った結果、K氏園でのベースとなる栽培基準を作ることができ、今後はこの栽培基準をブラッシュアップすることで、より高品質のブドウ生産につながり、目標を達成することが可能と考えられます。

今後も愛東ぶどうの担い手として益々の活躍が期待されます。

### ◎対象者の意見

就農2年目で、去年は手探りであったが、今年1年を通して技術習得が進み、秀品が増え、販売額を伸ばせた。今後も継続して支援を願う（K氏）。